

大学時代の行動は「種」 大輪の花が咲くときが きつと来る

人気YOUTUBER「瀬戸内サニー」として精力的に活動する大崎さんの行動力のルーツは、大学時代。広い世界を知ったからこそ見えたもの、果敢に仕掛けていったからこそ実を結んだこと…。チャレンジし続けた大学時代の思い出を語ってもらいました。



もっと、面白くしたい

外の世界へ飛び出して 切り拓いた可能性

香川大に入ったのは、ぶっちゃけ、受験で失敗したからです。志望校を切り替えた時点で願書を用意できた総合大学が、香川大と長崎大学でした。うどんとちゃんぽん、毎日食べるならうどんだな…というわけではないけど、学べる分野が広くて国際的な連携協定もあって、なかなかいい環境だなと思える教育学部へ。

私のような事情で香川大に来た学生にとって大事なものは、「入学した後で何をするか」です。私は受験の挫折が自分を変えるきっかけになり、入ったからは自分の可能性をどこまで追求しようと、学業以外にもいろんな活動を展開しました。信頼できる先生方と果敢に活動する先輩方との出会いが、背中を押してくれ、とても感謝しています。

学内で友達と仲良く過ごすだけではダメだ、外の世界を知りたい…と思っていたものの、大学1年まで日本を出たことがなく、2年の夏休みにニュージーランドに2カ月留学したのが初の海外体験。これが引っこ込み思案だった自分を変えるきっかけになりました。

りました。香川大がチェンマイ大学と連携する際のプレ留学では交換留学生として1カ月タイで過ごし、「外から見る日本」を初めて意識したのもいい経験でした。

3年からは教育実習がスタート。生徒たちには間違ってもいいから挑戦する心を育ててほしいと、主体性を重視する指導に打ち込みました。現場の先生方には「君が教師にならないのはもったいない」とまで言ってもらえたものの、「もっと社会や教育にインパクトを与える仕事をした」と思うようになり、そこで、思い切って2年間の休学とアメリカ留学、いわゆるポジティブ休学を決意。私は今30代ですが、10〜20代の体験は30代以降の体験よりもはるかに価値があると思います。多少無理をしても、若いうちにチャレンジする方が絶対いい。当時はあまり理解されませんでした。私を応援してくれたユニークな先生方のおかげで決断できました。

私が滞在した2011年前後のアメリカは、シリコンバレーからどんどん起業家が生まれ、iPhoneが台頭し、スティーブジョブズが亡くなり、オバマ大統領が誕生し、SNSが黎明期で…と、爆発的に世の中が変化していた時期。現地で名だたる企業の

人々に混ざり、時代の活気をリアルに体験できる幸運に恵まれたのも、自分で行動を起こしたからだと思っています。

1年半アメリカで勉強し、SNSで仲間になったメンバーと東京でシェアハウスをしながら半年のインターン生活を送って、大学に復学しました。出身は兵庫県ですが、香川は私にとってふるさとです。外を知ってから戻ると、瀬戸内の風景や食文化の魅力にあらためて気づくことも多く、SNSを通じて香川の魅力を発信するコンテンツを企画したり、東日本大震災のボランティアツアーを主催したり、ギネスブックの記録に挑戦したり、とにかく「今までにないことを学生主体でやろう」とチャレンジし続けました。

社会には、案外ルールがないんです。とりあえずやってみるのが大事で、それをちゃんと受け止めてくれる地域の方々の懐の深さも実感します。地方は挑戦者が目立つチャンスも大きいかも知れません。私が学生時代に第1回香川ビジネスパブリックコンペで提案したこと、今会社をつくら取り組んでいることの軸はほとんどブレしていません。当時の構想と、あの頃に育んだ人間関係が、全部今につながっています。大学時代の行動は「種」。いつ芽生えるかわからないけれど、

ど、「人生の伏線」として回収され、花開く時がきつと来ますから、たくさんまいておいてほしいです。

正しく使いこなせば 技術は強い武器になる

私の活動の場であるYouTubeをはじめ、インターネットやSNS、進歩目覚ましいAIなど、今や私たちの身の回りには当たり前のようにテクノロジーがあふれています。テクノロジーを吸収して自在に活用するスキルは、若い人ほど高いでしょう。地域を超えて自分の可能性を支えるツールとして、これらを「どう使いこなすか」「これを使って何ができるか」を考えてほしいです。テクノロジーは使い次第で素晴らしい料理もつくれるけれど人を傷つけるかもしれないナイフのようなもの。それを使う「人」を磨くことを忘れてはいけません。

「挑戦」と「臨機応変」は人間の強みです。テクノロジーがあれば場所を問わずチャレンジできる今、大学生には「自分がどう生きるか」をちゃんと考え、しなやかに軽やかに変化に対応しながら、時代の波を乗りこなしてほしいと思っています。



トレードカラーの黄色や全身タイツの由来は「太陽のような人を笑顔にする存在でありたい」という意味を込めています。



アメリカ留学時代のクラスメイトとの交流の様子

瀬戸内サニー株式会社代表取締役&YouTuber

大崎 龍史 (おおさき りゅうし)

兵庫県上郡町出身。2014年香川大学教育学部卒業。東京のWeb系広告代理店やヤフー・ジャパンなどによる合併会社でメディア戦略を担当。2018年1月に「瀬戸内サニー株式会社」を設立。企業へのデジタルマーケティング支援事業、学校現場や自治体への教育事業を展開。YouTuberとしても活動し、2021年にはGoogle社が選ぶ社会的・文化的・経済的に有意義な影響を与えた日本のYouTubeクリエイター101人に選出。好きなうどんは「かけうどん」。小中高教員免許第一種(理科)。